

2016年の夏の大会を

まだ一度もやっていない

群馬で!



つるま ぐんまけん
鶴舞う形の群馬県(「上毛かるた」より)→



ホテル天坊・しろがねの湯

渡良瀬・仮説実験授業サークル 品川 正

伊香保温泉「ホテル天坊」にて、お待ちしております!

<http://www.tenbo.com/spring>

日程 2016年

7月25日(月)・26日(火)・27日(水)

午後1時から

午前中まで

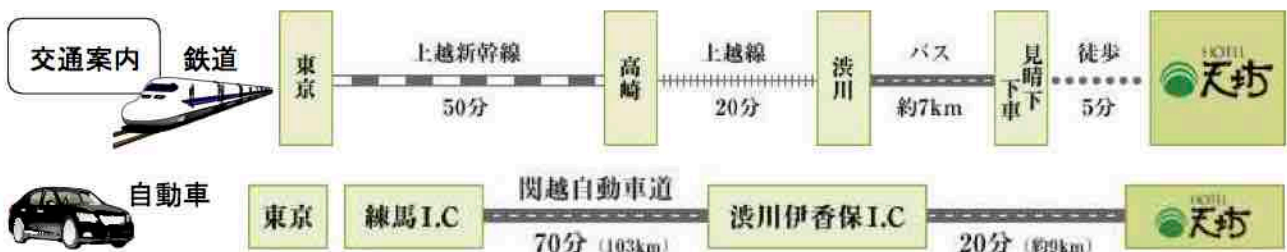
**合宿研究会のよさを見直しつつ、個別の宿泊にも対応したハイブリット会場で
これからの「夏の大会」のあり方を考える組織的な実験を提案します!**

ホテルに、全体会や分科会、売り場やナイターなどの会場を、宿泊数に関係なく押さえました。会場費は参加費でまかないます。参加者のみなさまには、「宿泊の仕方」を下のような選択肢から、自由に選んでもらう形になります。これからの「夏の大会」を考えていく上での大事な実験になると考えています。

- ア。「ホテル天坊」大会実行委員に宿泊を申し込む。(従来通り、食事・部屋割りなどのお世話をします!)
- イ。「ホテル天坊」に直接ネットなどで申し込む。(お世話はしませんが、会場にいられるので便利です!)
- ウ。「近くの宿」にネットなどで申し込む。(温泉街なので、宿は近くにたくさんあります。ナイター参加もOK!)

どれを選んでいただいても大丈夫なようにします!この結果は、きっと今後の参考になるはずです。

東京から約1時間半。来年の夏の大会には、ぜひ群馬にいらしてください!

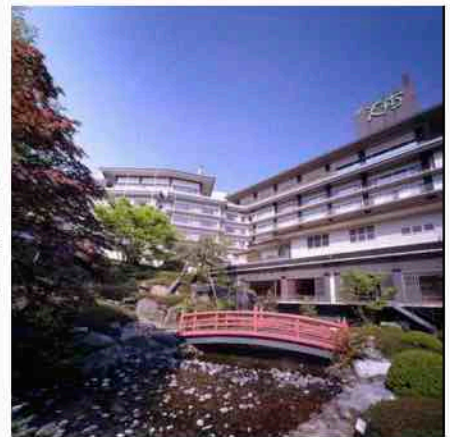


新しい分宿実験に最適な

「ホテル天坊」の魅力

群馬・渡良瀬仮説サークルMLの話題から、読み物の形に編集して紹介します！

文責：峯岸昌弘



○「組織的な実験」なんて言っているけど、そんなことは大会運営者が考えなくても、参加者がもう勝手にやっていることなのではないのかな？

● どういうことですか？

○ 普通のホテルでは、宿泊してくれるから会場を貸してくれるんだよ。つまり、通常の「宿泊費」というのは、暗黙のうちに「宿泊費+会場費」を払っているわけ。ホテルに宿泊しないで外部に泊まるということは、会場費を払っていないことになる。つまりそれは、宿泊している人が会場費も負担しているということです。そのことはもう 20 年近く前から問題になっていました。(大会参加者は多いのに宿泊者が少ないので運営が大変になった) と言うのです。こういった問題は、今までも、経済的に解決しようとしてきました。つまり、「大会参加費」に「大会参加費+会場費」というふうに乗せたのです。早割りがあるのも、ある程度の人数を押さえるためです。ホテルとしては部屋が空くようなら他へ貸し出したいわけだからね。

● なるほど。もうずっと前から問題になっていて、すでにいろいろと実験してきているというわけですか。

★ ところがです。「ホテル天坊」は、大きな会をすることに慣れている宿泊施設で、「会場費さえ払ってくれば、宿泊はしてくれなくても大丈夫ですよ」と言ってくれているホテルなんですよ。

● 本当ですか？

○ そんなこといつてるけど、必要な部屋をまるまる押さえた場合に、いくらぐらいかかるの？ それって、「大会参加費」に関係してくるんですよ？ 「実験を提案します」とか言ってるけど、言い方を変えれば、「高い参加費で運営します」ということですよ。安い大会参加費では実験できない。そういうことをちゃんと宣言していける運営をしてほしいな。資料代のことなども含めて、参加費をどう使うのかをはっきりさせてくれると、払う方としても納得していけるんだけど。

● …う～ん、よくわからなくなってきた。今までのことも含めて、どなたか説明してくれませんか。

★ それではボクが説明します。昔は確かに一般の人が個人旅行など普通にする時代でも無く、とにかく研究がすすめばよかったので、相部屋で遅くまで布団の中で会話をしながらの、それこそ「合宿」研究会でした。また、その方が安い費用で宿泊できました。しかし、二、三十年ほど前から、旅行慣れしてくると、相部屋では気を遣って嫌だという考えが出てきました。そこで、会場の近くに個人的に宿泊をする人が出てきたのです。さらに、個人旅行が当たり前になり、しかもネットが普及することで、相部屋で会場に泊まるよりも快適で安い宿泊場所を手軽に探せるようになりました。昨今では、会場と同じ宿に個人的に予約して泊まったほうが、大会運営側を通すよりも条件のよい宿泊をすることができるようになったのです。ここまではいい？

● なるほど。そんな理由があったのですね。それじゃあ自然な流れとして、宿泊者が減るわけだ。

★ ここで、問題になるのは、大会会場費の問題です。これまでは「宿にこれだけ宿泊するから」という条件で会場を貸してもらっていたのですが、個人的に宿泊する人が増えると、会場に宿泊している

人だけが会場費を負担していることになります。そこで、「宿泊者割引」というのも出てきましたが、時代の流れは止めようがありませんでした。

● すでにそんな実験をしていたんですね。そして、やっぱり「個人で泊まる」方に魅力を感じる人が多くなっていることがわかったんだ。だから、今回の東京大会は、完全に会場だけの提供で、「宿泊は自分でする」形になったんですね。

★ まあ、それだけが理由というわけではないんだけど、今回の大会も大きな実験であることは間違いないよね。それに、これまでの「宿泊者割引」というのは、やっぱり「ある程度の人数確保が必要だった」ことを示している制度だと思います。ところが、ところが。「ホテル天坊」は違うんだな。その辺りの話をしていかがい？

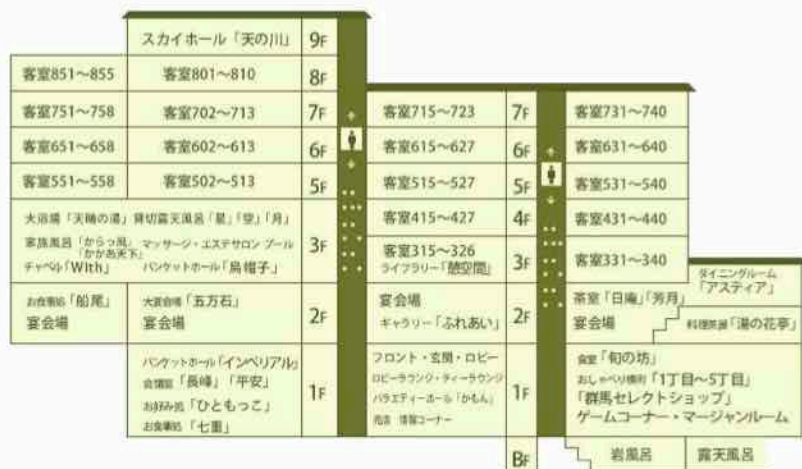
● はい、お願いします。

★ 個人宿泊の希望は確かに増えてきました。でもしかし！「合宿」には合宿の良さがあるのでは無いでしょうか。それは、見知らぬ人同士が、仮説実験授業を知っているというだけで一緒に食事をしたり、同じ部屋に泊まったり、ホテルの廊下でいつまでもおしゃべりしたりということをしている中で、新しい出会いや発見をすることがあるのです。大広間で食事をするとき、ボクなどはさみしいから、なるべく知り合いを見つけますが、どうしたって、大広間なら周囲にあまり話したことの無い人もいます。そういう人に何となく声をかけたりすると、そこからちょっと知り合いになって、これまで知らなかった情報を得ることもあるのです。また、それまでガリ本や資料などでしか知らなかった（でも資料では大変お世話になった）人などと偶然同部屋になって、そこで改めてお礼や感想を言えて、それが元で、さらなる情報を得られたなんてこともありました。

● へえ！大部屋だからこそその魅力もあるんですね。たしかに、それって夏の大会の醍醐味ですよ！

★ そこで、会場費と宿泊費の問題を解決し、合宿研究会の良さを味わいたいという人のご希望にも応えることができる大会として、伊香保はいい場所なのです。「ホテル天坊」は、県の研究大会で毎年使っています。その研究会は会員が500人くらいいて、大会参加者は400人くらいです。でも、県内の会だから宿泊者は40人くらいで、そのうち10人は本部役員です。参加費は、日帰りで5千円、宿泊はたしか1万5千円、不参加費はなんと千円です。日帰り参加者は、ちゃんとした使い捨てじゃない箱に入ったお弁当と、ペットボトルのお茶と、分科会場で晴芳亭のまんじゅう2種がでます。分科会では、30~40人くらいの部屋を15ヶ所くらい使っています。

発表者には、3千円の謝礼。午前中は講師をお呼びして、5万円の予算で講演を1時間くらいしてもらいます。今年は文科省の方。去年は教育法規の大学の先生。毎年必ず使うので、「ホテル天坊」は慣れてしています。ボクは昨年本部役員として打ち合わせに行きましたが、ホテルの担当の人がだれよりも大会運営を知っています。



● 参加者400人規模で、大ホールや15ヶ所の会場も使って、宿泊者が40人くらい！？

★ 夏の大会も、この方式で会場だけ使うという契約をします。たぶん1回こっきりですから、その研究会よりはサービスが無いでしょう。でも、これなら宿泊は極端な話、運営委員だけでもいいのです。そこで、提案としては、合宿研究会がしたい人は、大会本部に部屋割りその他をお任せで申し込みます。でも、部屋数には限りがあります。また、天坊は大きな宿ですから、個人的に部屋を予約することもできます。この場合には、食事は別ですが、会場にいつまでもいられます。そして、近隣にはピンからキリまで宿泊施設がたくさんあります。ご予算に応じて選択できます（でも伊香保は坂の街ですから、夜道はちょっときついです）。つまり、東京大会のような「会場と宿の分離型」と、従来の「一つ屋根の下合宿研究会」の両方を選択できる〈ハイブリット会場〉として、伊香保を提案させていただくわけです！

● へえ！すごい！！宿泊の仕方がそこまで自由に選べる大会って、今までなかったんじゃないですか？

★ そうだね。「伊香保温泉街」と「ホテル天坊」だからできる実験かもしれません。それで、具体的には、大会運営は「参加費」でまかなって、宿泊費とは完全に分離します。

○ 今回の東京大会は、1万円の参加費です。純粋に「会場費+運営費」です。資料代は〈一律、一人千円〉で考えているそうですが、それでもかなり厳しい財政状況だと聞きました。今までの流れから、参加費は1万~1万5千円程度、宿泊費は1泊1万2千円程度で考えると思います。そうすると、群馬大会での参加費はいくらくらいになるのかな。宿に関しては、伊香保ならば1泊7千円から泊まれるところがありますよ。ボクは天坊に直接泊まったことはないけど、ボクを含めてヒラ教員はみんな、近くのホテルに安く泊まっていました。

★ 大会運営は「参加費」でまかなって、宿泊費とは完全に分離するので、参加費はどうしても高くなってしまいます。そういう点で、東京大会はお財布に優しい大会ですよ。伊香保だとそこまで安くはできませんが、金額的にきつい方でも、その分、安宿を選択することで、合計金額をとんとんにもできるはずですよ。

● なるほど～。そういういろいろなことも含めて、参加者がどんなふうに宿泊を選ぶのかをみるための実験になるというわけですね。

★ その通り。結局何が言いたいのかというと、〈見知らぬ同士が「研究」を介して一同に会する「合宿研究会」の意義をもう一度問い直したい〉ということなのです。でも、同時に気兼ねなく宿泊したいという要望にもお応えできる大会運営をしたいのです。本当に提案性があるのかどうかは、わかりません。でも、本気で言ってます。こうしてメールで意見が出し合えるのだから、もう大会に出かける必要も無いじゃないかって思う人がいても不思議ではありません。でも、ボクはそうは思いません。顔を合わせて一堂に会することは研究の進展にとって大事です。それから、偶然による出会いも新たな発展を呼び寄せると思います。ずっと、そう考えてきました。だから、単なる思いつきとばかりは言えません。場所はどこでもよかったのですが、伊香保でそれができたらいいですね。

